

ボランティア・NPO活動センター
【東日本大震災被災地とつなぐオンラインプログラム】



福島スタディツアー・オンライン・プログラム ～もうひとつの福島再生を考える～

2011年3月11日、東日本大震災が発災したことは、知っていても、翌日の12日に何が起こったのかを記憶している人は少ないのではないのでしょうか。あれから10年以上の月日が流れましたが、私達には、まだまだ知らないことがたくさんあります。

今回は、東京電力福島第一原子力発電所の事故により町内全域に避難指示が出され、10年以上の月日が経った現在も、未だに町内に「帰還困難区域」が残っている福島県大熊町とオンラインでつなぎ、「大熊町から、未来を考える」をコンセプトに活動されている木村紀夫さんにお話をうかがいます。

(詳しくはセンターHP参照ください⇒)



日時:2023年2月7日(火) 13:30~15:20

講師:木村 紀夫 氏

team汐笑(ゆうしょう)プロジェクト代表・大熊未来塾塾長



1965年福島県大熊町の海沿いの熊川部落に生まれる。自転車で放浪生活をしつつ自給自足的な生活に憧れた20代を経て、帰郷し結婚、娘2人を授かる。45歳で東日本大震災により被災。津波で父と妻、次女を失い、原発事故で故郷を追われる。父と妻の遺体は見つかるが次女:汐凧(ゆうな)の遺骨の一部発見までに5年9か月を要する。搜索の傍ら、避難先の長野県白馬にて便利な物に頼らない生き方を追求し、震災の伝承だけでなくこれからの生き方に疑問を投げかけるようなイベントを開催。現在は福島県いわき市に拠点を移し、中間貯蔵施設内の大熊の自宅跡に通い発信をつづけ、自身の得た教訓を次世代に絶やさぬ未来を町で実現するために日々奔走している。

実施形式:ライブ配信 (Zoom) 参加費:無料

申込みについて

★申し込みはこちら↓



●参加対象者
龍谷大学の学生・教職員及び、一般

★申し込みフォームから申込できない場合は、以下のメールアドレス宛に、「福島オンライン・参加申込」という件名で、メールを送信していただくか、センター窓口までお越しください。

★問い合わせ先:ボランティア・NPO活動センター 【<https://www.ryukoku.ac.jp/npo/>】
メールアドレス E-mail:ryuvnc@ad.ryukoku.ac.jp (深草・瀬田の共通アドレスです)
電話:075-645-2047(深草) ※土日祝及び冬期一斉休暇中(12/28~1/5)は電話対応できません